

JR連合結成30周年記念シンポジウム

新たな時代における鉄道の発展と JR産業の持続的発展にむけて

「次なる30年の強くしなやかなJR産業を創る5提言」
を発信



JR連合は2022年10月6日、東京・ホテルメトロポリタン「富士の間」において「新たな時代における鉄道の発展とJR産業の持続的成長にむけて」と題した「結成30周年記念シンポジウム」を開催した。

日本の少子高齢化と人口減少が急速に進む中、JR産業を取り巻く環境は急速かつ大きく変化しつつある。特に地方路線は厳しい経営状況に陥っており、JR北海道・四国およびJR貨物などは自立的な経営の見通しが立たない状況となっている。

コロナ禍の社会経済活動の変化も加わり、JR労使はかつての国鉄改革に次ぐ大転換期に直面しているとも言える。そのような中で次なる30年を見据え、JR産業が安

全を基礎に持続的に成長し、組合員が意欲的に安心して働き続けられる環境を構築するためには、労使が共に社会変化に対応し、不断の変革を進めていくことが重要である。そうした認識のもと、JR連合は、政策提言「次なる30年の強くしなやかなJR産業を創る5提言～『ONE TEAM』となり誇りを持って社会に貢献し続けるために～」を発信した。

シンポジウムには、JR連合加盟単組や連合・交運労協に集う産別・単組から約450人（オンラインを含む）が参加。基調講演やJR連合からの「提言」提起、パネルディスカッションを通じて、今後のJR産業のあるべき姿やJR連合運動のあり方を考察した。

主催者あいさつ

JR産業の持続的な発展に向け 社会に対応し 政策を進化させる

1992年5月に「JR連合」を結成し、本年度30年を迎えました。この間、諸先輩のご努力、並びに私たちを支えて頂いた皆様に感謝を申し上げます。

JR連合結成の5年前、1987年4月1日に戦後最大の行政改革とされる「国鉄改革」によってJRが誕生しました。国鉄改革の目的は、JR各社が経営の自主性を確保し鉄道を再生することにあります。国民や関係者のご理解とご支援の下、JRグループは労使の努力によって一定の評価をいただける成果を得ることができたと考えます。

しかしその一方、少子高齢化や人口減少、高速道路の整備などJRを取り巻く環境は急速かつ大きく変化し、特に鉄道の特性を発揮できない地方路線などは大変厳しい経営状況に陥っています。発足から35年6ヵ月が経過したJRは、コロナ禍など

社会の急速な変化によって国鉄改革時に並ぶ大転換期を再び迎えていると考えます。

今後30年を展望する時、JR産業が安全を基礎に持続的に成長し、組合員が安心して意欲的に働き続けられる職場環境を築くために、労使をあげて社会の変化に対応し、不断に変革・改革に取り組む必要があります。国民の理解を得て鉄道や公共交通の政策も進化させていかなければなりません。

そうした課題認識の下にJR連合は、「次なる30年の強くしなやかなJR産業を創る5提言」『ONET EAM』となり誇りを持って社会に貢献し続けるために「」を発信します。

JR産業は、SDGsや脱炭素社会の達成、地域の創生など持続可能な社会の形成にさらに貢献できる能力があると確信しています。その役

割を発揮するために、民の力を生かして成長分野をさらに磨くとともに、官民のパートナーシップを深めて公共的な使命を果たす政策の推進が求められます。

JR連合は、既にJR二島・貨物の経営自立化、持続可能な地域公共交通づくり、さらに新幹線・高速鉄道ネットワーク構築などの提言を行ってきました。国土交通省もこの転機にあたって「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」をはじめ、様々な議論と提言を行っています。

多角的な視点から鉄道・公共交通の持続性のある政策が進むことを期待し、私たちもその実現に向けて積

極的に参画していく決意です。

本シンポジウムは、JR連合結成30周年の節目にあたり、鉄道・公共交通を活かした社会の形成、そしてJR産業の持続的成長を実現するために、内外に政策提言を行う有意義な機会にしたいと考えます。

JR連合会長

荻山市朗

ビデオメッセージ

滋賀県知事 三日月大造氏

皆さん、こんにちは。滋賀県知事

の三日月大造です。今日は私の大好きな、また原点でもあるJR連合が結成30周年の節目を迎えられ、記念式典シンポジウムを開催されると伺い、謹んでメッセージを送らせていただきます。まずは、この30年の歩みに心から

敬意を表し、またお祝いを申し上げますと存じます。グループ労組の皆さんを含め、私たちの生活やそれぞれの地域に、なくてはならない公共交通をはじめとする幅広い生活サービス産業を担っていたいただいていることに、心強く思うと同時に感謝申し上げますと思



います。

私自身も1999年から2001年までの2年間、JR連合の「青年・女性委員会」の議長を担わせていただき、組織の問題や政策の問題、様々な活動をしたことが原点になっております。もう一つ申し上げたいのですが、今、

人口減少やロシアによるウクライナ侵攻、コロナ禍の長期化など、様々な事柄により社会に大きな変化が生じています。言ってみれば時代の曲がり角にあるのではないかと意識しております。以前のように人口が増えず、生まれてくる子どもの数も減る。また長引くコロナ禍の中で、私も県民に対して申し上げてきたんですけれども、「行かないでください」「来ないでください」「人と人との距離をとってください」「会議はやらないでください」「出社はできればテレワークにしてください」と言ってきました。このことは私たちの暮らしを大きく変えると同時に、皆さん方が担われているお仕事のあり様を大きく変える事態になっているのではないのでしょうか。

そういう状況の中で、私は一筋の光を見出しつつあります。それは社会の共通資本というものに対する私たち国民・県民の物の見方の変化です。自

然環境も医療もそうです。そして、皆さん方の多くに担っていただいている公共交通が、私たちの社会にとってなくてはならない共通の大切な資本であり、資源であるということの認識が高まりつつあるのではないのでしょうか。

厳しい状況にある会社や路線が自治体に対して提起されたり、どうすれば持続可能なかということと一緒に考えられるようになってきました。安全というものを第一に据えながら、公共交通の持続可能性を一緒に考えていくステージやプラットフォームをこれからどんどん立ち上げていきたいと思

みます。みんなで描いた夢、ビジョンを実現するための方策として、今滋賀県では、地域公共交通をこれから維持活性化するための財源を私たち県民が等しく少しずつ負担する仕組みについて、いわゆる交通税という形でつくれるのかという投げかけを始めました。

新たな税をつくることや追加で負担することについては慎重であるべきだと思いますが、国の補助金だけに頼らず、利用者の負担、事業者の経営努力だけに頼らない新しい選択肢を地方自治の中で持つことができれば、公共交通の新しい未来を開くこともできるのではないのでしょうか。

交通は私たちの血液であり、血管で

もあると思っています。文化の源でもあります。福祉や社会の背骨にもなるでしょう。ぜひ滋賀県で皆さんと一緒に培ってきたことを実践・実現できるように頑張っていきたいと思

います。最後にありますが、労働組合の元気がなくして会社や社会の元気はないと思

います。JR連合が、「人と人が出会い、ふれ合って語り合って、職場の問題を克服していくんだ」「社会をより良くしていくんだ」ということを念

じながら活動されていることは、JRという産業にとっても社会にとってもとても意味のあることだと思います。コロナでなかなか厳しいこともあるかと思いますが、この30年の来し方を振り返り、さらにこの行く末をみんなが希望・夢を持って描いていけるように、大いに役割を果たしていくことを期待したいと思います。「明るく・楽しく・元氣よく」は、JR連合「青年・女性委員会」のモットーです。皆さんの活動がさらに広がり、盛り上がりますことを強く願い、同時に、この式典やシンポジウムがこれからにとって有意義なものになりますようにご期待申し上げて、簡単ではございますけれども、メッセージとさせていただきます。皆さん、これからもう一緒に頑張りましょう。よろしくお願

いします。ガッツ！